

校長先生の初恋物語

第66話 よみがえったガブ

アマーラさんは速い。速い速い速い。アマーラさんは、もしかしたら人間じゃないのかかもしれない。走り方も、みんなとはかなり変わっていて、ものすごく低く走るんです。

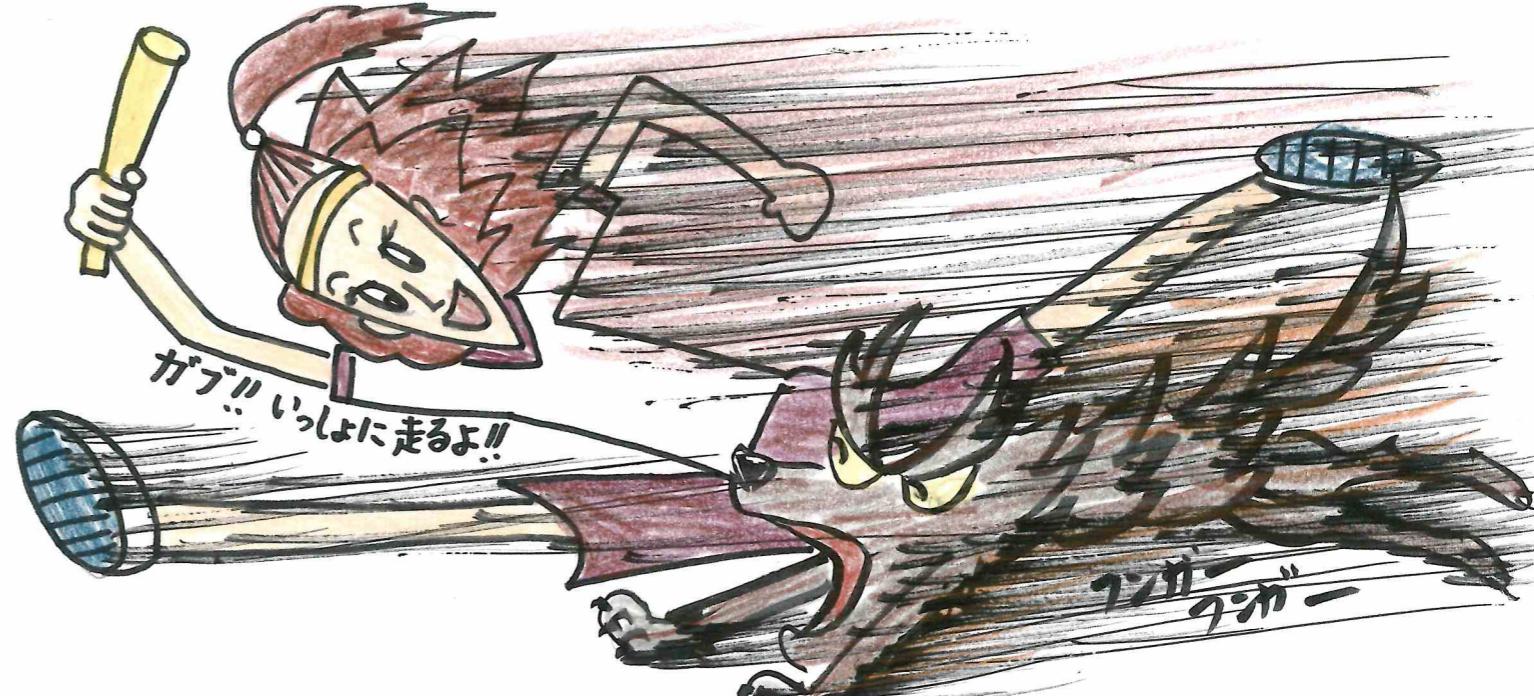
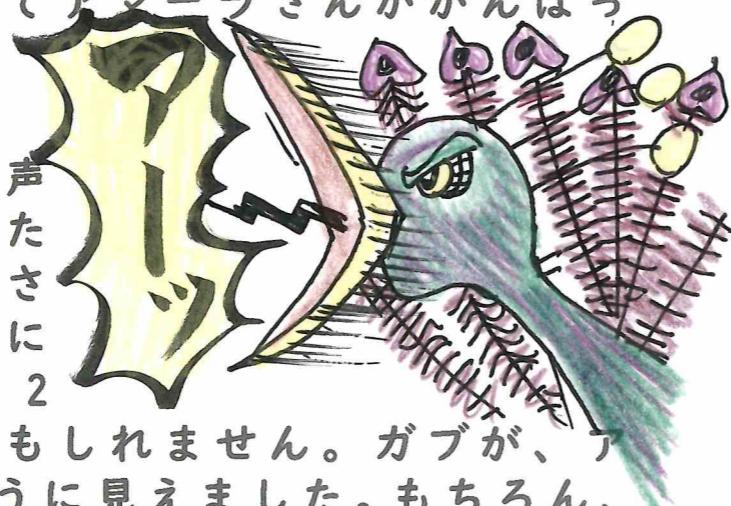
最初は、クラスに溶けこめなかつたアマーラさん。顔だつて見せてくれませんでした。そんなアマーラさんを救つたのが、ちん君です。ちん君がミッタをつくってくれたから、アマーラさんはみんなと仲良くなれたんです。今度は、アマーラさんが、ちん君のために走るんです。ちん君でおくれてしまつたぶんをばんかいしようと、アマーラさんはさうにスピードアップしていきます。

でも、1組、3組の人達も、そうとう速い人達です。なかなか差は縮まりません。ここまでアヌーラさんががんばつてるのでに。その時です。

An illustration of a large, green, bird-like creature with a long, slightly hooked beak and large, expressive yellow eyes. The creature has a textured, scaly-looking skin. It is looking down and slightly to the left, towards a small, white, spiky character who is mostly obscured by the creature's head. The background is a soft, out-of-focus green and yellow.

「アーネーーーーーーツ。」

クジャク小屋から、クジャクの声が響きました。その声がしたとたん、アマーラさんのスピードはさらに速くなりました。とっくんには見えました。もしかしたら、2組のみんなにも見えていたのかもしれません。ガブが、アマーラさんの前を走っているように見えました。もちろん、ガブはいません。ガブはおそらく、この世にはいません。でも、とっくんには見えました。そしてそれは、アマールさんにも、見えていはずです。



「走れーっ。アマーラさーん。走れーっ。ガブーーーーーっ。」
さけんだのは、とっくんではありません。ダンプさんです。
ダンプさんにも、ガブが見えています。

「がんばれー。アマーラさーん。がんばれー。ガブ
—————つ。」

今度はよしこさんまで。よしこさんにも、ガブか見えているってことです。

「アーネーーーーーーー。アーネーーーーー。」
くじゃくも鳴き続けています。もしかしたら、くじゃくにも、ガブが見えているのかもしれません。

すごいぞ。アマーラさん。アマーラさんはついに、1組、3組を追い抜かしました。そして再び2組がトップになったんです。

「よっしゃーーーーっ。」とっくんは叫びます。
「アチョーーーーーーーーっ。」きんに君も叫びます。
そしてバトンは、とっくんに渡ります。アマーラさんは、
とっくんにバトンを渡す瞬間に、こう言いました。

「とっくん。大好き。」
こんなところで、アマーラさんから愛の告白です。とっくんは、アマールさんにこう言って、走って行きました。



「アマーラさん。ぼくも好きだよ。」つづく
次回予告 愛が背中を押している

